



2011年2月15日発行（隔月刊）



う 羽 化 か

ISSN1880-8646
2011年2月
第84号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
編集責任者 木 下 和 久



目 次

漢点字の散歩 (23) (岡田健嗣)	1
点字から識字までの距離 (80) (山内 薫)	9
東京漢点字例会報告とわたくしごと (木村多恵子)	13
東京漢点字学習会報告 (菅野良之)	17
ご報告とご案内	20
漢点字講習会のご案内 (横浜漢点字羽化の会)	22
漢文のページ	23
漢点字講習用テキスト(初級編・第24回)	26
編集後記 (木下和久)	27

漢点字の散歩 (二十三)

岡田 健嗣

漢点字紹介 (六)



お詫びと訂正

前号でご紹介した第一基本文字の近似文字 (6) の「必」の例に「密」と「蜜」の二つの文字を挙げました。漢点字ではこの文字には「必」に当たる漢点字符号「」は示されておりません。そこで注として以下の文言を挿入します。

へ*「密、蜜」の二つの文字には「必」が含まれていますが、漢点字符号「、」には、「必」の漢点字符号「」は省略されて、「密」はウ冠と山、「蜜」はウ冠と虫で表されています。この二つの文字の音「ミツ」は、「必」に由来します。

4. 漢点字のご紹介

複合文字 (1) (承前)

化とこれを含む文字

(31) 化 カ ケ ばける

人偏 + ヒ

この文字は二人の人を逆さに並べた形で、物事の移り変わりを表しています。字式では旁をカタカナのヒを使用しましたが、漢点字では人が二人並んでいる「比」を使用しました。偏は第二人偏の「」を使用しました。

熟語… 化学 合 (化合) 文

(文化) 変 化 (変化)

(32) 草冠 / 花 カケ はな

樹木や草に咲くハナを表す文字です。草冠で草を、化でその草が変化することを表します。漢点字では「」で草冠を、「」で化を表します。人偏を省略しました。

熟語… 瓶 (花瓶) 壇 (花壇)

(33) 貨 カ

化 / 貝

貝は子安貝の貝殻を象って、古代の中国で貨幣として使われました。化は物事の移り変わりを表す文字で、この文字は貨幣を使用して財貨を交換することを表します。漢点字では「」で貝を、「」で化を表します。左右が逆になっています。

熟語… 幣 (貨幣) 物 (貨物) 財

(財貨) 硬  (硬貨)

 火を含んだ文字

(34)  炎 エン ほのお

火 / 火

火を二つ重ねて、火が燃えている様子を表す文字です。火は燃え上がる炎を象っています。燃え上がる炎だけでなく、熱い・暑いという意味を表します。漢点字では「」と「」、火を二つ並べて表します。

熟語  熱 (炎熱)  暑 (炎暑)  症

(炎症)  (火炎)

* 炎には、「タン、ダン」という音もあります。

(35)  言偏 + 炎 ダン かたる

熱心に語り合い、話し合う様子を表す文字です。言偏で話をするをあらわして、炎は「ダン」という音を表します。漢点字では「」で言偏を、「」で炎を表します。

熟語  笑 (談笑)  論 (談論)  密

(相談)  (密談)

(36)  秋 シユウ あき

ノ木偏 + 火

季節の秋を表す文字です。ノ木偏は穀物の実りを表し、火は害虫を火で駆除する様子を表すと言われます。漢点字では、「」でノ木偏を、「」で火を表します。

熟語  (秋分)  麗 (秋麗) 麦 

(麦秋) 中  の名  (中秋の名月)

* 下から火を燃やして煮炊きすることを表す連火 (または列火) があります。四つ点で表しますが、漢点字では「」で表します。そこで連火の字式を「」で示します。

(37)  占 /  (連火) テン つける ともす

小さな狭いところの意味の文字です。占は店に含まれている文字で、店の片隅を表します。連火は、黒に由来していて、黒い点の意味です。小さな印や点数を表します。また火や明かりをつける、ともすとも用います。漢点字では、「」で占を、「」で連火を表します。

熟語  (点数)  (点火)  灯

(点灯)  焦  (焦点)

(38)  然 ゼン ネン しかり

(肉月 + 犬) /  (連火)

「𠄎」で口を表します。

熟語… 𠄎𠄎復 (回復) 𠄎𠄎答 (回答) 𠄎𠄎覽

(回覽) 巡 𠄎𠄎 (巡回)

(44) 𠄎𠄎国 コク くに

𠄎 (国構え) √ 玉

国構えの中に玉を置いた形の文字です。国土を守ることを表しています。漢点字では、「𠄎」で国構えを、「𠄎」で玉を表します。

熟語… 𠄎𠄎 (国家) 𠄎𠄎 (国土)

𠄎 (日本国)

(45) 𠄎𠄎困 コン こまる

𠄎 (国構え) √ 木

国構えの中に木を置いた形の文字です。門を止め木で開かなくして、出入りができなくなることを表しています。動けなくなつて、進退に窮まることを意味します。漢点字では、「𠄎」で国構えを、「𠄎」で木を表します。

熟語… 𠄎𠄎窮 (困窮) 𠄎𠄎難 (困難) 𠄎𠄎億

(困億) 貧 𠄎𠄎 (貧困)

𠄎𠄎古とそれを含む文字

(46) 𠄎𠄎古 コ ふるい いにしえ

十・口

十と口で構成される文字です。安寧が永続することを祈る意味を表します。永く続くところから「ふるい、いにしえ」の意味で用いられます。漢点字では、「𠄎」で口を、「𠄎」で十を表します。左右が逆になつていきます。

熟語… 𠄎𠄎今 (古今) 𠄎𠄎 (古来) 懐 𠄎

𠄎 (懐古) 復 𠄎𠄎 (復古)

(47) 𠄎𠄎苦 ク にがい くるしい くる

しむ

草冠 / 古

草冠の下に古を置いた文字で、苦味のつよい草を表しています。苦い味を味わうことから苦しい・苦しむと用いられています。漢点字では、「𠄎」で草冠を、「𠄎」で古を表します。口が省略されます。

熟語… 𠄎𠄎勞 (苦勞) 𠄎𠄎 (苦心) 𠄎𠄎 (困苦)

(困苦) 𠄎𠄎 (病苦)

(48) 𠄎𠄎枯 コ かれる からす

木偏 + 古

木と古で構成された文字です。植物が古くなつて、乾燥して枯れることを意味します。漢点字では、「𠄎」で木偏を、「𠄎」で古を表します。口が省略されます。

熟語… 𠄎𠄎𠄎渴 (枯渴) 𠄎𠄎𠄎 (枯木) 榮 𠄎𠄎𠄎
盛衰 (榮枯盛衰)

(49) 𠄎𠄎𠄎固 コ かたい かたまる かた
める

□ (国構え) ∨ 古

国構えの中に古を置いた形の文字です。古は永く続くことを意味しています。国構えは周りを囲んで出入りができない様子を表して、永く変わらない、固い・固まるの意味に用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎」で国構えを、「𠄎𠄎」で古を表します。

熟語… 𠄎𠄎𠄎有名 (固有名) 𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎 (固執) 𠄎𠄎𠄎
𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎 (頑固) 頑 𠄎𠄎𠄎𠄎 (頑固)

(50) 𠄎𠄎𠄎個 コ

人偏 + 固

人偏と固で構成される文字です。相手のないこと、一つの意味を表します。個々と言えば、各々、一人一人の意味になります。また物を一つずつ数える単位としても用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎」で人偏を、「𠄎𠄎」で固を表します。古が省略されます。

熟語… 𠄎𠄎𠄎 (個人) 𠄎𠄎𠄎 (個性) 𠄎𠄎𠄎別
(個別) 各 𠄎𠄎𠄎 (各個)

𠄎𠄎𠄎舌とそれを含む文字 𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎 舌 ゼツ した
(51) 𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎 千・口

口の中の舌を象った文字です。言葉を話すことを表す語として用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎」で口を、「𠄎𠄎」で千を表します。左右が逆になっています。

熟語… 𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎 (舌鋒) 弁 𠄎𠄎𠄎 (弁舌)
𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎 (舌鼓) 𠄎𠄎𠄎打ち (舌打ち)

(52) 𠄎𠄎𠄎活 カツ いきる

さんずい + 舌

舌にはカツという音もあって、この文字はその音を取ってカツといえます。生き生きしてして活動的な様子を表します。漢点字では、「𠄎𠄎」でさんずいを、「𠄎𠄎」で舌を表します。口は省略されます。

熟語… 𠄎𠄎𠄎 (活発) 𠄎𠄎𠄎𠄎 (活動) 生 𠄎𠄎𠄎
(生活) 𠄎𠄎𠄎𠄎 (活け花)

(53) 𠄎𠄎𠄎話 ワ はなす はなし

言偏 + 舌

言偏と舌で構成される文字です。舌を使ってものを言うこと、話をすることを表します。漢点字では、「𠄎𠄎」で言偏を、「𠄎𠄎」で舌を表します。口が省略さ

す。

熟語… 物 (好人物) 印象 (好印象)

きみ (好き好み) き嫌い (好き嫌

い)

(59) 姉 シ あね

女偏 + 市

女偏と市で構成される文字です。シの音は隣の市に由来して、年長の女性を表します。漢点字では「」で女を、「」で市を表します。

熟語… 妹 (姉妹) 弟 (姉弟)

(兄弟)

十を含む文字

(60) 計 ケイ はかる はからう

言偏 + 十

言偏と十で構成される文字です。はかる、計測するという意味、はからう、計画するという意味を表します。漢点字では、「」で言偏を、「」で十を表します。

熟語… 測 (計測) 量 (計量) 画

(計画) 時 (時計)

(61) 針 シン はり

金偏 + 十

金偏と十で構成される文字です。金属の針をあらわしています。縫合用の針と、治療用の針、真つ直ぐな針を表します。漢点字では、「」で金を、「」で十を表します。

熟語… 灸 (針灸) 運 (運針) 指

(指針) (方針)

(62) 有 ユウ ウ ある

ナ / 月

字式ではカタカナのナに似た形を「ナ」で表します。このナは手を象っていて、月は肉を表します。肉を手で持つて、供え物をするを表す文字です。漢点字では、「」でナを、「」で月を表します。カタカナのナを「十」で表します。

熟語… 無 (有無) 利 (有利) 所

(所有) り難う (有り難う)

(63) 布 フ むの

ナ / 巾

カタカナのナと巾 (市の下の形) で構成される文字です。カタカナのナは、父に由来するもので、麻の布を表します。漢点字では、「」でナを、「」で巾

を表します。

熟語… 団 (布団) 布巾 (布巾) 頒

(頒布) 毛 (毛布)

車を含む文字

(64) 軍 グン いくさ

ワ冠 / 車

ワ冠の下に車を置いた形の文字です。車は將軍の乗る車、ワ冠は車に立てられて靡いている旗で、軍隊を指揮している姿を表しています。漢点字では、「」でワ冠を、「」で車を表します。

熟語… 隊 (軍隊) 救世 (救世軍)

(十字軍)

(65) 庫 コク くら

广 (まだれ) > 車

广(まだれ)と車で構成される文字です。广は建物を表し、車は戦車を意味します。戦車を保管するための建物です。漢点字では、「」で广を、「」で車を表します。

熟語… 裏 (庫裏) 倉 (倉庫)

(車庫) 書 (書庫)

(66) 連 レン つらなる つらねる

つれる

しんによろ + 車

しんによろと車で構成される文字です。元は物を運ぶことを表しましたが、わが国では「つらなる、つらねる、つれる」と訓読します。漢点字では、「」で進によろを、「」で車を表します。

熟語… 帯 (連帯) 委隊 (連隊)

体形 (連体形) 子連れ

その他

(67) 社 シャ やしろ

示偏 + 土

示偏と土で構成される文字です。土は神を祭る祭壇を表して、示は供物を載せる台を表します。現在では人が集まって力を合わせることを意味しています。漢点字では、「」で示偏を、「」で土を表します。

熟語… 会 (社会) 会 (会社) 団

法 (社団法人) 寺 (寺院)

(68) 明 メイ ミヨウ あきらか あ

かるい あける

日偏 + 月

日偏と月で構成される文字です。窓から月光が差し

込む様子を表して、闇の中に光が差して、明るく照らし出して、明らかに見えることを表します。漢点字では、「𠄎」で日偏を、「𠄎」で月を表します。

熟語… 𠄎𠄎暗 (明暗) 𠄎𠄎解 (明解) 光 𠄎𠄎

(光明) 賢 𠄎𠄎 (賢明)

(69) 𠄎𠄎味 ミ あじ あじわう

口偏 + 未

口偏と未で構成される文字です。未は植物の新芽を表していて、柔らかく味がよいという意味を表します。漢点字では、「𠄎」で口偏を、「𠄎」で未を表します。

熟語… 𠄎𠄎覚 (味覚) 𠄎𠄎 (意味) 吟 𠄎𠄎

(吟味)

(70) 𠄎𠄎体 タイ テイ からだ

人偏 + 本

人偏と本で構成される文字です。人の身体の形や姿を表す文字です。漢点字では、「𠄎」で人偏を、「𠄎」で本を表します。

熟語… 𠄎𠄎格 (体格) 𠄎𠄎 (体力) 𠄎𠄎

(車体) 𠄎𠄎形 (連体形)

点字から識字までの距離 (八十)

盲学校・ろう学校生のインターシップ(四)

山内 薫 (墨田区立あずま図書館)

いよいよ八月三日の最終日。午前中は懸案となっていたあずま図書館で所蔵する点訳図書の目録をとる作業と引き続きSさんへの点字指導をお願いする予定だったが、もう一度窓口を経験したいという強い要望があったので、九時から一時までの間、Sさんと一緒に窓口業務を行った。利用者の差し出す貸出券をスキャンすることも、本に付いているバーコードをスキャンすることにもだいぶ慣れてきて問題なくこなせるようになった。一時過ぎに障害者サービスマスターに戻り、目録をとる点訳図書を閉架書庫から運び出した。あずま図書館の閉架書庫には五十タイトル程の点訳図書の他、『紅ばら』や『読み切り官能小説』など一九八〇年代に刊行されていた点字ポルノ雑誌のバックナンバー、そして『手で見える学習絵本―テルミ』(日本児童教育振興財団発行 小学館協力)が一九八三年の創刊号から保存されている。この『テルミ』は隔月刊で現在も刊行されており、既に二〇〇号を越えている。毎号二四ページ立てのA四より少し小ぶりのサイズで、

クリーム色の紙に活字と共に青い発泡インクで点字と絵が印刷してあり、発泡インクの盛り上がりによって点字や様々な形を触読できる。ドラえもんなどの人気キャラクターの形、花や動物の形、丸や三角、数字やカナ、折り紙等々さまざまなものや形が触って確認でき、クイズなども毎号載っている。特に人気があるのは迷路で、盛り上がった線の間を指でたどって行ってゴールまでたどり着くようになっていく。閉架に入ってからKさんに『テルミ』を見せると、小さい頃に読んでいたそうで、とても懐かしがっていた。

さて、閉架書庫に所蔵されている点訳図書のうち、他の点字図書館や公立図書館の多くで既に所蔵している文学書などはあえて外し、他ではあまり所蔵しておらず、あずま図書館にしかないものを中心に目録を作成することにした。あずま図書館に異動してきて点訳図書が閉架書庫にあることが分かり調べてみたのだが、どの本もインターネット上の全国総合目録には載っていないことが分かった。そこで一冊一冊の点訳図書の目録をとり、その目録をフロッピーに入れて都立中央図書館に送ると、そのデータが『東京都公立図書館 録音・点訳図書、拡大写本新情報』に掲載され、都内の各公立図書館に送られると共に、国立国会図書館の点字図書・録音図書全国総合目録にも掲載さ

れ、インターネット上の国立国会図書館蔵書検索（OPAC）によって誰でも検索することができる。この目録に載っている点訳図書や録音図書は全国の点字図書館、公立図書館から相互貸借で借りることができる仕組みになっている。前の職場の緑図書館では、同じように目録を送り現在では一三〇タイトルの点訳図書が登録されているので、全国の点字図書館、公立図書館から貸してほしいという依頼がくる。あずま図書館の点訳図書の目録をとろうと思っていた矢先、盲学校の生徒がインターネットに來館するというので渡りに船でお願いしたわけである。

Kさんが点訳図書の奥付を読み、それをSさんがパソコンに入力していくというやり方で目録をとったのだが、閉架書庫から持ってきた点訳図書二七冊のうち一冊は漢点字の点訳書だったので、その本についてはこちらで目録をとって、その情報をSさんに入力してもらった。作業は昼を挟んで2時半頃には終了し、入力したフロッピーは週に一回あずま図書館に來る都立図書館の協力車で都立図書館の担当部署に送った。

今回のインターネットシブの最後のプログラムは、文京盲学校の担任のN先生とKさんのお父さんを交えた反省会だった。一五時からの反省会に参加していただいたKさんのお父さんは建築設計の仕事をなさってい

る方で彼女が目指している教師になれるよう応援を惜しまないと話された。文京盲学校生の公立図書館でのインターンシップは初めてのことであったが、成功裏に終わったと言ってもよいだろう。最終日の反省点と感想をKさんは次のように記している。

「カウンター業務では、「貸し出し」、「返却」の手順を完全に覚えることができ、自分自身で全てできるようになったことが、嬉しく思い、達成感でいっぱい。目録作成では、点訳された本の奥付に、「I S B N」がカットされていることが多かったので、驚きました。

反省会では、「これから社会に出たときに、特技を持たなければならぬ。そうしないと、自分の居場所が生まれない。」というN先生からのお話を聞き、社会の厳しさを改めて知ることができました。また、Sさんからの「外交的で何事にも積極的な姿勢が良かった」と



窓口でのKさんとSさん

いうコメントを聞いて、その姿勢をこれからも大切にしようと思いました。

三日間を通して、晴眼者の中で、一人の視覚障害者として、仕事をできたという経験を、将来に生かしたいと思います。」

最終日の実習先のコメントとして彼女の日記には次のように記した。

「あつという間の三日間でしたね。今日は貸出返却を沢山こなしましたが、手順を飲み込むのがとても早くて感心しました。多くの利用者もとても優しく見てくれていました。現在公立図書館には二〇人ほどの視覚障害の図書館員がいますが、ほとんどは障害者サービスの担当で一般の窓口に出ることはないようです。一日目のコメントにも書きましたが日野市立図書館のNさんは定期的に一般の窓口に出ているそうです。障害のある人が職員として窓口に出ることの意味はとても大き



点訳図書目録をとる

いと思います。もう一人、聴覚障害者で日本手話が第一言語である枚方市立図書館の山元亮（やまもと りょう）さんも全く聞こえない人ですが一般の窓口に出ています。（その他に肢体障害の図書館員は一五〇人近くいます）

さて、今日読んでいただいたあずま図書館の点字図書は国立国会図書館の点字図書・録音図書全国総合目録に載っていないもので、今回目録を都立中央図書館経由で報告して、インターネットで検索すれば、全国どこにでも貸し出しできるようにしようと思っています。これからの入力作業はSさんをお願いしますが、第一段階の作業に協力していただいても助かりました。

職場の中での自分の居場所についてですが、一緒に仕事をする周りの人たちとコミュニケーションをうまくとることが出来ればまずは大丈夫ではないでしょうか。その点Kさんは性格的にもうまくや



反省会、担任のN先生

っていけると思います。あとは周囲の人の眼を積極的に使うこと、点字だけではなく音訳を始めさまざまな情報摂取方法の中からそれぞれ最も効率の良い方法で情報を入力できるようにすること、この二点が大事ではないかと思えます。

これからも英語教師を目指してがんばって下さい。また、あずま図書館にも遊びにいらして下さい。」
こうして三日間にわたるインターシップが終わった訳だが、窓口からお話し会として特別養護老人ホームで歌う歌の伴奏まで日頃私たちの行っているかなりの仕事を体験してもらったことになる。視覚障害者の職域として公立図書館（もちろん点字図書館も）の仕事は将来性のある仕事だと考えている。利用者に点字図書や録音図書を提供する仕事を当事者が担うことは自然なことではないだろうか。（その点字図書の中に漢字図書も含まれていれば言うことがないのだが：。）二〇年以上前のことになるが、墨田区の盲人協会の会長に対して視覚障害の図書館員を採用するように区に要望を出してほしいと訴えたこともある。（盲人協会では残念ながらそうした要望を出さなかつた。）

さて、仄聞するところによると実習の一年半後、Kさんはめでたく和光大学に合格した。現在も英語教師への道を目指して勉強していることと思う。

「東京漢点字羽化の会」例会報告と

わたくしごと

木村 多恵子



第61回例会 2010年12月8日(水) 13:30
15:30、ヒューマンプラザ7階第1会議室

わたしたち東京羽化は12月が新しい年になる感じである。会の発足が、正式には12月だったからである。つまり、この12月から「東京漢点字羽化の会」は6年目に入る。皆様5年間おつきあいくださいませとありがとうございました。そしてこれからもどうぞよろしくお願いいたします。

まず、当面の課題である、「第二次パソコンによる、漢点字入力ボランティア講習会」を充実したものにしたいので、皆様心を合わせて準備をしていただいている。

12月の例会は、最初に「花をひろう」の12月、1月の入力者、第一、第二校正者のグループを確認した。入力方法については固まってきたので軌道に乗りそうである。

12月15日の横浜での点字印刷をしていただくお二人を決めていただいた。横浜羽化の方もお手伝いをしてくださる。

11年1月19日に点字印刷できるようお部屋を予約し

てくださっている。

2月の講習会募集広告の新聞は、まだ掲載されていないが、ネットを通じて、岡田さんへ問い合わせがあったという。また、菅野さんへも具体的に応募書を寄せてくださった方もあったとの報告がなされた。

これからはネットへの更新を細やかにして羽化の活動内容を沢山の方の目に触れていただけるようにしようと話合った。

次に寺山修司の歌集を入力していただいたものを、岡田さんが丁寧レイアウトその他を詳細に決めていった。入力部分を分けるのは来年の第一回例会のときにすることにした。

第62回例会、2011年1月12日(水) 13:30
15:30、ヒューマンプラザ7階第1会議室

「羽化83号」は12月22日にお送りした。

講習会には6名の方からの参加希望があり、岡田さんをはじめ、講座の進め方について話し合った。テキストも横浜からいただいで来てくださって、準備も整えてくださっている。

各新聞には応募記事を載せていただけなかった。

「花をひろう」の各週の担当グループを1月の後半から2月、3月のはじめまでを確認した。

「花をひろう」の点字印刷は1月19日に、3人の方が行ってくださり、滞りなく2010年11月分と12月

分ができ、読者に配布して下さった。

2011年度は、毎月第3水曜に、東京羽化の点字印刷日として予約して下さった。

寺山修司の本の中に、楽譜があり、これも岡田さんから説明をしていただいた。

この寺山修司の本は、新しいメンバーの方々に入力していただくことにした。

2月からは講習会がはじまりますので、皆様ますますお忙しくなりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

* 予告

2月の例会、(講習会1日目を含む、第63回例会)、2011年2月9日(水)、講習会初日なので、資料の準備のため、11時ホールへ集合する。

講習会の受付13時、講習会は13:30~15:30、

場所ーヒューマンプラザ7階竹芝小ホール

第46回学習会、2011年2月19日(第3土曜)

18:30~20:30、ヒューマンプラザ7階第一会議室

講習会2日目、2011年2月23日(水) 13:30

~15:30、ヒューマンプラザ7階第一会議室

3月の例会、(講習会3日目を含む、例会第64回)、2011年3月9日(水) 13:30~15:30

ヒューマンプラザ7階竹芝小ホール、

第47回学習会、2011年3月19日18:30~20:30

ヒューマンプラザ7階、第一会議室

4月の例会、(例会第65回) 2011年4月6日(水)、13:30~15:30

ヒューマンプラザ7階第一会議室

第48回学習会、2011年4月16日18:30~20:30

ヒューマンプラザ7階第一会議室

わたくしごと

めずらしく母校の同窓会報を読んでいた。目次の中から懐かしい友や後輩の名前を見つけ、年経たことを改めて実感した。その中のある記事が特に気にかかり、読んでみると、1953年5月25日に行われた母校での式典にまつわる話であった。

読み進めてゆくうちに、この或一日のこと、その日わたしが着ていた洋服のこと、当時のわたし自身の生活ぶりまでがよみがえってきた。

その式典とは、食堂の落成式である。

それまでの食堂は、生徒おおよそ6、70人が二度に分かれて食事をし、しかも長椅子と長テーブルを使うので、隣の人の肘と肘がぶつかり合い、ともするとその狭さのために汁ものなどうっかり零すことさえあった。

ところがこの新食堂は一度に125人は入れる大きなもので、しかも、一つのテーブルを4人でゆったり使えるという、それまでには考えられないほど贅沢な

広さだった。

この食堂建設にどのくらいの日数がかかったか覚えてはいないけれど、大勢のおじさんたちが毎日学院に来て仕事をしていたのをよく覚えてる。その工事のために、この道は通ってはいけない、この辺りへ入ってはいけないと職員から注意を受けていたからである。

新食堂を寄贈してくださった方は、横浜の船会社の支店長として、郷里のサンフランシスコから横浜に移り住んでいた、ジョージ・ダンジーさんである。ダンジーさんは、横浜訓盲学院のことを知り、盲児たちのためになにかしようと、友人知人に呼びかけて寄付を集めはじめた。ところが、1951年ダンジーさんは40代という若さで急死してしまった。友人たちはダンジーさんの志を受け継いで、「ダンジー委員会」を立ち上げ、8千ドル（当時の日本円で約300万円）を集め、学院に食堂（名称、ダンジー・メモリアル・ホール）を寄付してくださったのである。

その落成式が1953（昭和28）年5月25日（月）で、この日は風もない、穏やかな、それはそれは爽やかなよいお天気であった。

式の中でわたしは鮮明に記憶していることは、亡くなられたダンジーさんの奥さんと、10歳前後のお嬢さんがサンフランシスコから来られて列席されていたこ

とである。ダンジーさんを亡くして奥さんもお嬢さんもどんなに悲しいだろうと、子供心に涙を流し、その涙がお日様の光ににじんでいたことである。お嬢さんがわたしと同じ年頃だったこともあって余計悲しかったのだ。

ところで会報に記されていた内容はわたしを驚かせた。2010年7月21日、学院の事務長がメールチェックをしていると、その中に、かのダンジーさんの姪に当たるサラ・ウツダム・ウイリアムスさんからの送信があったのである。それによると生前、ダンジーさんは、両親や家族に、学院の話を書き留めていた。ご両親や兄弟は何時か学院を訪ねたいと思っていたが、その後約50年余を過ぎて、兄弟方はその願いを果たされぬまま亡くなってしまった。ダンジーファミリーは、彼が残した、学院の思い出が詰まったスクラップブックを大切に保存しており、今は、サラ・ウツダムさんが持っている。今年の夏日本へ行く機会が出来たので、ファミリーの代表として、是非学院を訪問したい、という内容であった。

こうして2010年8月25日の午前、サラ・ウツダム・ウイリアムスさんと、そのご子息のブラクストンさんが学院を訪れ、学院長はじめ主立った人々が大歓迎をしたという話である。

母校にはこうした人々の真心によって立てられた建

物が幾つもあり、それらの建物には直接関わってくださった方の名前が付けられ、絶えずその名を口にすることで、記念として記憶し続けている。

当然そうした善意の積み重ねのことを説明され、皆さんに感謝しなさいと教えられてきた。けれども、年を重ねたこのごろになって、改めて多くの方々の援助を受け、助けられ、育てられてきたのだとしみじみ思う。

全寮制で、4、5歳から20歳くらいまで（最大90名くらいだろうか？）の、大半は全盲の子供が幾つもの寮に別れて暮らしていた。

このダンジーさんの記事を読んで、あの頃のわたしは一人でいることが好きだったことを思い出した。

この学院の大きな配置図は、山を切り開いて作られた所なので、横幅9尺（約3メートル弱）の急勾配の坂が、敷地のほぼ中央に位置し、その坂が真っ直ぐ谷底へ向かってはしっており、その両側の傾斜地を整地して、講堂をはじめ、大小の教職員住宅、男女別の寮が4、5軒、お風呂場、それに小さなあずま屋が幾つも点在している。

その他そうした幾つもの建物と建物を繋ぐための小さな坂や階段が、中央の急勾配の坂とは別に、敷地の外側に近いところに作られている。

たいていの人はこの中央の、「9尺坂」を使って建

物から他の建物へと移動していた。わたしも友達と一緒にのときはいつもこの「9尺」を使っていた。けれども一人の時や、日曜の自由時間には、この「9尺」以外のちよつと険しい階段や坂道を一人でうろうろと歩いていた。当時わたしはほんの少し見えていたので、上の建物と下の建物を隔てる土手や、それを繋ぐ通路としての坂や階段際に咲いている花を見つけては立ち止まって、白や赤、黄色の花をじっと見つめていた。

わたしの視力では花の形は分からない。ただ目立つ色がわたしを引きつけ、ぼんやりとなにを思うともなく見とれては移動し、そこに点在するあずま屋に、そのときそのときで誘われるまま、わたしたち子供が使つてよいあずま屋を移動して、やはり一人ぼんやり過ごしていた。このあずま屋は全部お花の名前が付けられていたので、「はぎにいるからね」、「ききょうで待っているからね」と言うだけで互に通じた。わたしは読みたい本を持って気ままに好きなあずま屋を選んで、木のいすとテーブルだけの場所、そして季節によっては小鳥の鳴き声を聞きながらひとり読んでいた。今思えばあのころもつと沢山読書に費やしていた。ばよかったと思う。

わたしは、自分の寮の掃除の時間になると、かならず寮へ戻る。そして、「どこへ行ってたの？」と聞かれても、隠す気はなく、「さくらにいた」、「つつじ

にいた」と言うので、寮の先生は特別心配していなかった。あのころわたしの年齢と近い人はいなかった。寮の仲間とは離れていることが多く、一人、日を過ごしている方が気楽だった。そんなふうなので、ひとつのあずま屋をひとりですべて掃除するのは大好きだったし、雑巾がけをするためのお湯を取り替えるために、お風呂場から何回もお風呂の残り湯を運んでくることも、寮のお掃除の結果出るゴミを、学院のごみ集積場へ捨てに行くことも気軽に進んでやっていた。

その後年齢も増し、転校し、環境も変わり、年頃になって、ひとりの人を愛し、結婚し、わたしのできる限りを尽くして神のもとへ見送り、今また一人暮らしになってしまった。そんな悲しみを抱いている日々、自宅に引きこもっていた。けれども徐々に目と心が外へ向いたとき、わたしは、小石川植物園や目黒にある自然教育園、神代植物園、等々力（とどろき）溪谷など、静かな所へ、本当にただひとりで行きたいと思った。もちろんそれは適わぬことだったが！

わたしが今、大自然ではないまでも手近にある小さい自然、お花や木々の多い公園へ行くのが好きなのは、子供の頃の体験がかなり影響していると思う。

花と、特別の音楽と、愛する人が今も心に居ること、わたしの人生は幸せだと今は満足している。

2011年1月31日 月曜

東京漢点字 学習会報告

東京漢点字羽化の会 菅野良之

平成22年度 第八回（第44回）報告

1 日時 平成22年12月18日（土）

18時30分～20時30分

2 場所 ヒューマンプラザ7階 第1会議室

3 出席者（省略）

4 使用教材 「漢点字講習用テキスト 初級編

第四回（全十回） 漢点字編、墨字編

5 学習会内容

前回の復習

5 複合文字（2）

2・第1基本文字と比較文字で

構成される文字（2）

(35) 「寄^{●●●●}」 ウ冠（1・4の点）と奇（カ^{●●}）

1・6の点）で表す。

(36) 「練^{●●●●}」 糸偏（イ[●]1・2の点）と東

（ヒ^{●●}1・2・3・6の点）で表わす。

(37) 「煙^{●●●●}」 火偏（3・4・5・6の点）と

西（ニ^{●●}1・2・3の点）で表す。窓を象った形で、

隣の部分の「土」はかまどを意味する。

(38) 「要」西(ニ・1・2・3の点)と女

(フ・1・3・4・6の点)で表す。

(39) 「票」西(ニ・1・2・3の点)と示

(ノ・1・2・3・4の点)で表す。

(40) 「標」木偏(キ・1・2・6の点)と

票(ニ・1・2・3の点)で表す。標繩と書いてしめ

なわと読むが、現代は注連繩と表すのが一般的。

『練』の東の部分は、方位を表わす東ではなく、

「東(カン)」から転じた文字。

『煙』、『要』、『票』、『標』はいずれも西を漢

点字では構成上用いるが、方角の西ではなく、「西に

似た字」として用い、字式は「西※」で「※」は類似

しているということを意味する。

「西」は木の枝に鳥が巢をかけている様子を表して

いる。

今回の学習

5 複合文字 (2)

3. 第1基本文字と比較文字で

構成される文字 (3)

※「皆」(比・4・5の点とリ下がり・2・3・

6の点)をパーツとして含む文字一つ。

(41) 「階」(サ・1・5・6の

点)と皆(リ下がり・2・3・6の点)で表す。字式

はこごと偏十皆。「こごと」は阜から転化した字で、

神が天から降りてくるはしごとという意味。隣の比は人

が並んでいる形。白は口(サイ)に物が入っている様子

を意味し、サイを囲んで人々が集まっている所に神

が天から降りてきた意味を持つ。古い神社、仏閣は階

段の上に建立しているのが多い。音読みのカイは漢・

吳音。訓読みに「きだはし、はし、しな」がある。熟

語に「階(はし・庭から屋内に昇る階段)」歴階

(れきかい・1段ごとに片足ずつかけて急ぎ昇るこ

と)「山皆(やましな・山科とも、京都の地名)」

「山皆寺(やましなでら・興福寺の旧称)」位階

(いかい・古代、朝廷の官人の身分標識。栄転の一種

で勲功・功績者に与えられる位・叙勲)「冠位十二

階(603年、聖徳太子、蘇我馬子らが制定。徳・仁

・礼・信・義・智の位を定め、それぞれに大小を付与

し12階。冠は紫・青・赤・黄・白・黒で色分けし、

濃淡をつけ区別した)「

※「尺」(比・4・5の点とタ・1・3・5の

点)をパーツとして含む文字三つ。隣の部分は度量

衡を表す尺ではなく、旧字の「澤」などの旁からきて

いる。上の部分は「よこめ、あみがしらで」数字の四

からきたという説もある。下の「幸」は、手かせ足か

せの「かせ」からきたもの。罪を犯してもその程度で済んだことから「幸い」に意味が使われるようになった。

(42) 「**駅**」 馬偏(ソ…2・4・5・6の点)と尺(タ…1・3・5の点)で表す。字式は馬十尺。駅馬車の馬を交換する場所。中国の元の時代はシルクロードの各所に駅を配置した。音読みのエキは漢音。訓読みに「うまや、はいま」

平成22年度 第九回(第45回) 報告

1 日時 平成23年1月22日(土) 18時30分～20時45分

2 場所 ヒューマンプラザ7階 第1会議室

3 出席者(省略)

4 使用教材

漢点字 講習用 テキスト 初級編

第四回(全十回) 漢点字編、墨字編

5 学習会内容

前回の復習

5 複合文字(2)

3. 第1基本文字と比較文字で

構成される文字(3)

(41) 「**階**」 (ぎと偏(サ…1・5・6の点)と皆(リ下がり…2・3・6の点)で表す。

※「**尺**」(比…4・5の点とタ…1・3・5の

点)「をパーツとして含む文字三つ。

(42) 「**駅**」 馬偏(ソ…2・4・5・6の点)と尺(タ…1・3・5の点)で表す。熟語に「駅弁」「四駅(しえき…江戸時代、江戸の四隅にあった五街道の出発点。千住は日光街道・奥州街道、板橋は中山道、品川は東海道、内藤新宿は甲州街道)」

今回の学習

(43) 「**沢**」 尺(タ…1・3・5の点)ときんずい(ニ…1・2・3の点)で表す。墨字とは左右が逆になる。字式はさんずい十尺。音読みのタクは漢音。訓読みに「うるおう」がある。熟語に「遺沢(いたく…後世に残された故人の恵み)」「恩沢(めぐみ、情け)」「滑沢(かたたく…なめらかでつやがあること)」「恵沢(けいたく…恩恵をうけること)」「贅沢」「潤沢」「沢庵、地名や人名に用いられ、」「丹沢」「所沢」「駒沢」「金沢」「野沢」「米沢」「沢村」「沢田」「柳沢」など多数ある。

(44) 「**沢**」 第2言偏(エ下がり…2・3・5の点)と尺(タ…1・3・5の点)で表す。字式は言偏十尺。音読みのヤクは呉音。熟語に「内沢(うちわけ)」「意識」「訳語(おさ、やくご…外国語を通訳すること、人)」「音訳」「金訳(かねわけ…金銭の勘定)」「訳有り」「申し訳無い」など。

※「**寸**」(比…4・5の点とシ…1・2・5・6

の点)「パーツとして含む文字十四と、時間に関係する文字二つ。

(45) 「守^{⋮⋮⋮}」 ウ冠(ウ・1・4の点)と寸(シ・1・2・5・6の点)で表す。字式はウ冠/寸。音読みのシユ、スは呉音。熟語に「看守」「嚴守」「攻守」「守秘」「鎮守」「天守」「天守閣」「守銭奴」「保守」「見守る」など。

(46) 「村^{⋮⋮⋮}」 木偏(キ・1・2・6の点)と寸(シ・1・2・5・6の点)で表す。字式は木偏+寸。音読みのソンは漢・呉音。「邑」から転じた文字。熟語に「寒村」「村八分」、名前に「村田」「村主(すぐり)」「木村」「村山」「田村」「村上」など多く使われている。

(47) 「討^{⋮⋮⋮}」 言偏(エ・1・2・4の点)と寸(シ・1・2・4・6の点)で表す。字式は言偏+寸。音読みのトウは漢・呉音。訓読みに「たずねる」がある。熟語に「仇討ち(あだう・ち)」「敵討ち(かたきう・ち)」「討ち入り」「返り討ち」「鬪討ち」など。

(48) 「冠^{⋮⋮⋮}」 ワ冠(2・5の点)と寸(シ・1・2・5・6の点)で表す。字式はワ冠/(元+寸)。音読みのカンは漢・呉音。熟語に「榮冠」「王冠」「三冠」「冠者」「冠水」「冠鷲」「冠位十二階」など。

「報告と」案内

一 『人名字解』の漢点字訳が完成しました

前号でもご案内致しましたように、今年度横浜市中央図書館に納入を予定しておりました『人名字解』(白川静著、平凡社、二〇〇四年)の漢点字版が完成しました。

『人名字解』は、『常用字解』に引き続いて刊行された漢字の辞典です。白川漢字学の集大成である『字統』、『字訓』、『字通』を、収録文字を常用漢字と人名漢字に絞り、より読み易く、コンパクトにした書物です。

見出し字、音読・訓読、解説、用例の順に述べられております。さらに解説には六書の分類、文字の由来、その由来の典故とその引用などが治められており、白川先生のご研究の入門書として誠に貴重な書物です。

この漢点字訳では、『常用字解』の漢点字訳に倣って、字形の説明を詳細にすることを心がけました。見出し字の字形は、その直後に字式を置いてその構成を示しました。また解説の本文中にも、字形の説明を要する文字が頻出します。これらも漢点字訳注を設けて、字式で示しました。(字式については、「漢点字紹介」の項をご参照下さい。)

なお甲骨文・金文の字形については、残念ながらその説明は困難と判断し、図示されていることのみ示しました。その図形をお知りになりたい読者は、原本の図を、レーズライターなどでのトレースを試みられることをお勧めします。

『人名字解』漢点字版は全七分冊、糊付け製本で中央図書館に納入します。納入期日は二〇一一年二月末日を予定しておりますが、図書館の受け入れ手続きの完了は、その後のこととなります。全国の図書館を通して貸し出されますので、大いにご利用いただけることを願っております。またEIB版もご提供致します。パソコンを使って、お読み下さい。

『常用字解』並びに『人名字解』漢点字版の完成は、視覚障害者にとつての最も手強いバリアである文字の世界に、細くまた狭いものではありませんが、一つの通路を穿てたものと考えます。確かに漢点字はまだ普及には及びませんが、視覚障害者が漢点字を手に入ればここまで可能であることを、実践で示すことができたものと考えます。逆に言えば、漢点字を学ばぬままである視覚障害者は、それだけで大きな損失に曝されているのです。

これらの資料は全て本会会員の汗の賜です。本会の活動は『漢字源』（藤堂明保編、学習研究社）の漢点字版製作から始まり、漢点字でなければ触読文字にで

きない、数々の書物の漢点字訳を試みて来ましたが。誠に感謝に堪えません。これらのお仕事は、必ず後世にのこるものと信じます。

* ご提案並びにお願い…

『常用字解』完成時にもお願い致しましたが、中途失明者の方で触読に困難を感じる方が沢山おられます。しかも漢字をご存じでありながら、漢字から断絶されておられます。このような方々に、『常用字解』並びに『人名字解』の音訳版を製作してご提供いただければ、如何に大きな福音になることか、計り知れない物を感じます。現在では音訳のメディアはDAISYが主流です。その頭出し方式を駆使すれば、容易に検索が可能です。音訳ボランティアの皆様は、是非お手をお挙げいただきたくお願い申し上げます。

読み上げについては、漢点字訳の経験を、ノウハウとしてご提供致します。

二 東京漢点字羽化の会

① ボランティア講習会

昨秋計画しておりましたが、会員募集を目的とした講習会が、広告を依頼した新聞に掲載されなかったことから、中止を余儀なくされました。

気を取り直して再度計画を立て直して、この二月・三月に行うこととして、再び各新聞に掲載を依頼するとともに、NHKボランティアネットのホームページ

やその他のメディアにも掲載していただけるようお願いした結果、何名かの方からご応募をいただくことができました。ようやく何とか開催できる運びとなりました。

既に二月九日を初日に、全三回の講習会が始まりました。受講者の皆様は大変ご熱心で、終了後直ちにご入会いただいで、活動にご参加いただけるものと胸を膨らませております。

募集広告をご掲載下さいましたNHKボランティアネットその他のメディアの皆様、深く御礼申し上げます。

② 『花をひろう』

昨年一月から、朝日新聞土曜版に掲載されている、詩人の高橋睦郎氏の著される『花をひろう』の漢字訳を始めました。一篇一篇はごく短い物ですが、あの高橋さんの筆から滲み出る一句一語は、新聞という極めて幅広い読者を想定していながらも、珠玉の趣を感じざるを得ません。

『横浜通信』の姉妹誌として、漢点字の読者にお届けします。これを機会に、お読みいただける方は、ご一報下さい。

三 漢点字講習会

来年度も引き続き、視覚障害者を対象とした、漢点字講習会を企画しております。

漢点字講習会のご案内（横浜漢点字羽化の会）

本会では2003年から、漢点字の講習を行っております。今年は9年目に入ります。

漢字を学びたいと希望される視覚障害者（児）、漢点字に関心をお持ち下さる一般の皆様、ご応募お待ちしております。

- ・名称：漢点字講習会 主催：横浜漢点字羽化の会
- ・講習の進め方： オリジナルのテキストに従って、通信制を基本に学んでいただきます。隔月にスクーリングを行います。楽しみながら勉強します。
- ・日程と会場： 第1回スクーリング、2011年5月5日（木）
14:00～16:00。横浜市ボランティアセンター8F・ボランティアコーナー（JR・市営地下鉄・桜木町駅下車）
- ・費用： 7,890円（テキスト代、点字器その他）
- ・お申し込み： 4月30日（土）までに、電話03-3613-3160か、Eメールでお願い致します。

E-MAIL： okada_tr_eib@ybb.ne.jp

横浜では五月五日を初回到隔月に開催します。東京では毎月開催しております。詳細は、お問い合わせ下さい。

漢文のページ

杜子春（四）

「吾子之心、喜・怒・
哀・懼・惡・欲、皆忘矣。
所未臻者、愛而已。」

向使子無噫声、吾
之藥成、子亦上仙
矣。嗟乎、仙才之難得
也。吾藥可重煉。
而子之身猶為世界
所不容矣。勉之哉。
遥指路使歸。

『続玄怪録』より

「吾子の心は、喜・怒・哀・懼・惡・欲、皆忘る。未だ臻らざる所の者は、愛のみ。向に子をして噫の声無からしめば、吾の藥成り、子も亦仙に上りしならん。嗟乎、仙才の得難きかな。吾が藥は重ねて煉るべし。而して子の身は猶世界の容るる所と為れ。之を勉めんかな。」遥かに路を指して歸らしむ。

「…フシテ…シメバ」は使役の形で仮定を表す。（もし先ほど貴公が声をあげなかったなら）

その後杜子春は、道士との約束を守れなかつた事を後悔して、再び華山の雲台峰にあつた道士の家を訪ねるが、どこにも人のいた跡はなく、無念の思いでひき返したのである。



雲間にそびえ立つ華山(西安)



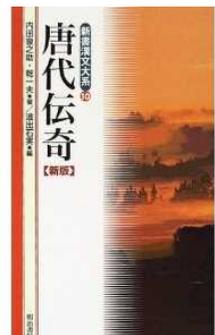
「吾子之心ハ、喜・怒・哀・懼・
 惡・欲、皆忘ル矣。所ノル未
 ダ・臻ラ者ハ、愛而已。向ニ
 使メバ子ヲシテ無カラ噫ノ
 声、吾之藥成リ、子モ亦上リシナラン
 仙ニ矣。嗟乎、仙才之難キ
 得也。吾ガ藥ハ可シ重ネテ
 煉ル。而シテ子之身ハ猶為レ
 世界ノ所ト容ルル矣。勉メン
 之ヲ哉。」遙カニ指シテ路ヲ
 使ム帰ラ。

参照図書：岩波ジュニア新書 『漢文の読みかた』（奥平卓）

『続玄怪録』（李復言・伝記不詳）
 唐代伝奇小説の一つ。
 芥川龍之介「杜子春」の原話となった
 「杜子春伝」をおさめる。

唐代伝奇

中唐期になり、創作意識を持った短編集
 が次々とあらわれ、流行した。中国にお
 ける小説らしい小説の初めと言われる。



明治書院・新書漢文大系10



漢点字講習用テキスト

初級編 第二十四回 ～比較文字の近似文字～

氏^ㇿ^ㇿ シ うじ … 「低^ㇿ^ㇿ」の〈近似文字〉です。氏族のまつりに、供え物の肉を切り分けた刀を象った文字とされています。この刀が、氏族の結束の象徴となって、「うじ」となりました。「低^ㇿ^ㇿ」の字形は、人偏にこの「氏^ㇿ^ㇿ」を書いて、その下に横線を加えた形です。刀で土地を平らにならして、氏族の居住地を確保することを意味しています。漢点字では、「^ㇿ^ㇿ」で表されます。

「氏族」「源氏物語」

4 基本文字 (3) … 比較文字

3. 長さ、重さ、容積の単位を表す比較文字

ここでは、〈比較文字〉の中で、長さ・距離・重さ・容積の単位を表す文字を、ご紹介します。

※長さ・距離の単位を表す比較文字。

(27) 尺^ㇿ^ㇿ シャク セキ

小さい「口^ㇿ」の左の縦線が左斜め下に伸びて垂れた形（しかばね）と、その根本から、右下へ斜めの線が引かれた形の文字です。「しゃく」は、一メートルの三十三分の十、すなわち、約三十センチメートルの長さを表す単位です。時代によって、場所によって、その長さには相違がありますが、手の指を広げた幅に由来すると言われます。現在では尺を長さの単位として用いることは少なくなりましたが、言葉の中には、まだまだ生きています。また、これを部首として含む漢字も沢山あります。漢点字では、「^ㇿ^ㇿ」で表されます。

「尺貫法」「尺取虫」「曲尺（かねじゃく）」「鯨尺」「巻き尺」

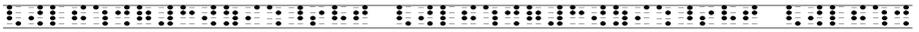
(28) 寸^ㇿ^ㇿ スン

縦横の線が、やや右寄りで交差して、縦の線が下で左に撥ねた形、また、線の交差の左下に点を入れた形の文字です。指一本分の長さを表すと言われます。単位としては、一尺の十分の一の長さ、すなわち、約三センチメートルに当たります。ほんの僅か、極めて少ない数、ちょっとだけという意味を表す文字です。漢点字では、「^ㇿ^ㇿ」で表されます。

「寸志」「寸法」「寸借詐欺」「一寸（ちょっと）」「隣寸（マッチ）」「一寸の虫にも五分の魂」

(29) 丈^ㇿ^ㇿ ジョウ たけ

十字に交差した縦の線の下が左に向かい、それに右斜め線が人の字形



に交わった形の文字です。人の字形も、右斜め線が、交差した所よりも少し上に出ます。手を広げて長さを計る形を表していると言われます。この長さは、尺の十倍、すなわち、約三メートルです。背の高さ、背の高い人、「丈夫」とは、体躯の立派な人の意です。「方丈」とは、一辺が一丈の四角形の意味で、今の四畳半（一間三尺、つまり九尺四方）よりやや広い正方形です。修行僧の庵を呼ぶ語として用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。

「大丈夫」「氣丈夫」「方丈記」「背丈」「丈比べ」「有りっ丈」「首っ丈」「思いの丈」

(30) 里𠄎𠄎𠄎 リ さと

四角く区切りをつけた「田𠄎𠄎」の下に「土𠄎𠄎」を置いた形の文字です。「さと」は、都会ではない、また山間でもない、田畑を区切って耕作して生活している所、かつては生産の中心であった農業地域を意味します。そこから、嫁ぎ先から見た実家、成長した子供が独立した所から見た親元という意味に使用されます。もう一つ、「り」と読んで、耕作する面積を区切ることから、距離の単位としても用いられるようになりました。古く中国では、一里を約五百メートルとしています。現在の日本では、約三九二七メートルです。単位は、時代と場所によって、大きな変化を見せます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。

「里程標」「里芋」「里親」「里帰り」「里言葉」「山里」「村里」

※重さの単位を表す比較文字。

(31) 貫𠄎𠄎𠄎 カン つらぬく

元は丸い貝殻を連ねた形に由来する文字と言われます。宝玉に穴をあけて紐を通すという意味です。「つらぬく」とは、最初から最後までやり通す、一本筋を通すという意味で、穴に紐を通して連ねたことから生じました。また「かん」と読んで、重さの単位としても用いられます。一貫は、約三・七五キログラムです。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。

「貫通」「貫徹」「貫頭衣」「尺貫法」「十貫目」

(32) 匁𠄎𠄎𠄎 もんめめ

カタカナの「ク」とカタカナの「メ」を重ねた形の文字です。重さの単位で、我が国で作られた国字です。「もんめ」は、一貫の千分の一の重さで、約三・七五グラムです。単に「め」とも言います。また、江戸時代の貨幣の単位「文」（このテキストでは、まだ出て来ていません。）の意味にも用いられました。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。

*カタカナの「ク」の形の印が頭につく文字があります。漢点字では、「𠄎𠄎」で表すことが多いようです。この「匁𠄎𠄎𠄎」の漢点文字符号に由来していると理解してよいのではないかと思います。

編集後記

▼先日、岡田さんがとうとうウィンドウズ7（64ビット版）のパソコンを購入しました。いくらXPが使いやすいといつても、マイクロソフトがもう後の面倒は見ないといわれればそれまで。パソコンを利用するユーザーとしては、流行について行かなければならない運命にあります。われわれとしては、この新しいウィンドウズにEIBRWなどのソフトが対応してくれるかどうか最大の関心事となります。結果としては、幸いなことにわれわれが使っている各種のソフトがそのまま正常に動いてくれました。更に嬉しいことは、視覚障害者にとつて最大の問題である音声ソフトが同時に動いてくれなければならないことですが、新しく導入したPCTカーは、そのままEIBRWに有効に働いてくれました。その使い勝手については、岡田さんにこれから細部の検証をしていただきませんが、よい結果が得られることを期待しています▼因みに、この新しいパソコンはデュアルコアのCPUを持ち、メインメモリ2GBで320GBのディスク容量があるのに、薄型で携帯性抜群、重さも従来のノートパソコンの半分程度で、本当にいうことがありません。ますます便利な世の中になったという実感が身にします。

（木下 和久）

（有）横浜トランスファ福祉サービス

障害者自立支援法の下、障害者にガイドヘルパーを派遣して、外出を支援しています。対象は、横浜市在住・在宅の、視覚・肢体・知的重度障害者。

常時募集・ガイドヘルパー：資格・ホームヘルパー2級以上、および視覚・肢体障害者移動介護研修修了。

業務概要：上記障害者の外出支援。詳細は担当・柳田まで。



〒231-0063横浜市中区花咲町1-46-1

GSプラザ桜木町1104

電話： 045-263-0306

FAX： 045-263-0316

E-MAIL（岡田健嗣）： okada_tr_eib@ybb.ne.jp

横浜漢点字羽化の会 URL：http://ukanokai.web.infoseek.co.jp

《表紙絵 岡 稲子》 次回の発行は4月15日です。

※本誌（活字版・DAISY版・ディスク版）の無断転載は固くお断りします。